

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：64303

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520488

研究課題名(和文) バイツィ語-南ブーゲンヴィルの危機に瀕する言語の記述研究

研究課題名(英文) A Descriptive Study of Baitsi - an Endangered Language of South Bougainville

研究代表者

大西 正幸 (Onishi, Masayuki)

総合地球環境学研究所・研究部・客員教授

研究者番号：10299711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、南ブーゲンヴィル(パプアニューギニア)の危機言語であるバイツィ語の現地調査を行い、基礎言語データと社会言語学的情報を収集しデータベース化するとともに、その文法記述を行うことを目的とした。またその近隣言語の比較データも収集し、南ブーゲンヴィル諸語の歴史的再構に関する分析を進めることを目指した。前者については、バイツィ語の基礎語彙や形態データ、ナラティブ、社会言語学的情報を収集・分析することができた。また後者については、おもにナゴヴィシ・シベ語の比較語彙データの音韻分析が進んだ。現在、これらのデータ分析に基づき、モノグラフおよび論文を準備中である。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to conduct fieldwork on Baitsi, an endangered language of south Bougainville, in order to collect basic language data and socio-linguistic information for writing a descriptive grammar of the language. It also aimed to collect and analyse comparable data of neighbouring languages to advance diachronic study of the South Bougainville family. As regards the former, we could collect and analyse basic vocabulary, morphological data and some narratives, and some socio-linguistic information. As regards the latter, we could particularly advance the phonetic and phonological analysis of the Nagovisi-Sibe language. We are in the process of producing a monograph and an article based on the analysed data.

研究分野：言語学

キーワード：危機言語 ブーゲンヴィル

## 1. 研究開始当初の背景

バイツィ語は、メラネシア島嶼部の中核に位置するブーゲンヴィル島の南部地域で話されている、500 人前後の話者数をもつ少数言語である。多くの話者が、地域共通語のトクピシン語のほか、周辺のコトゥナ語、ナゴヴィシ・シベ語、オーストロネシア語族のバンノニ語との多言語併用者である。これら周辺言語に圧迫されて、その話者数は急激に減少しつつあり、その意味でバイツィ語は緊急に記録・記述の必要な消滅の危機に瀕する言語である。

Ross (2001) は、代名詞の分析に基づいて、コトゥナ語、ブイン語、ナゴヴィシ・シベ語、ナーシオイ語の 4 言語が同一語族(南ブーゲンヴィル語族)を形成すると主張した。しかしバイツィ語はこの論文では扱われていない。SIL (夏期言語協会) の分類では、バイツィ語は“sublanguage”として扱われている。このように、基礎データがないことが主な理由で、この言語の位置づけはあいまいなままである。大西(2010)は、これまでに収集したデータの分析の結果、この言語が音韻的に見てナゴヴィシ・シベ語とコトゥナ語のちょうど中間的な特徴を持ち、どちらの言語とも異なる独立した言語として扱うに足る重要な特徴を持つことを指摘した。この言語の詳細なデータは南ブーゲンヴィル語族の再構に不可欠であり、類型論的にも興味深い問題を提示する。

以上の認識に立ち、大西は、連携研究者 1 名、国内研究協力者 1 名、海外研究協力者 2 名の協力のもと、現地調査を行い、バイツィ語の記述研究と、南ブーゲンヴィル語族再構の研究を進めるための基本データを収集することを目指した。

## 2. 研究の目的

(1) 南ブーゲンヴィル(パプアニューギニア)の危機言語であるバイツィ語の現地調査を行い、基礎言語データ、および話者人口・地理的分布・他言語との併用状況などの社会言語学的情報を収集し、データベース化するとともにその文法記述を行う。

(2) バイツィ語の近隣言語であるナゴヴィシ・シベ語の比較データも収集し、これまでに収集が済んでいるコトゥナ語の資料と合わせて、南ブーゲンヴィル諸語の歴史的再構に関する分析を進める。

## 3. 研究の方法

本研究は、大西正幸(研究代表者)、寺村裕史(連携研究者)、稲垣和也(国内研究協力者)、Therese Minitong Kemelfield(オーストラリア在研究協力者)、Rebecca Maniako(パプアニューギニア在研究協力者)の 5 名によって構成された。

(1) バイツィ語の言語データ・社会言語学

## 的情報の収集と分析

大西とバイツィ語話者の Maniako が、Maniako の故郷であるピケイ村での現地調査を通してバイツィ語の基礎データや社会言語学的情報の収集および分析を進めた。また Kemelfield と稲垣和也は、大西と Maniako の現地調査の補佐を行った。

言語データは、年配の話者をおもな対象として、基礎語彙、動詞および親族名称名詞のパラダイム、個人史や民話などのナラティブの音声データを収集した。また地域の小学校の識字教育担当の教師から、識字教育用の教材を収集、その音声録音も行った。さらに、これらのインフォーマントへのインタビューを通して、話者分布や言語併用などについての社会言語学的情報を収集した。また、GPS を用いてピケイ村周辺の地理情報の収集も行った。

言語データの分析は、Maniako とその両親・姉妹、および Kemelfield の協力を得た。

## (2) 隣接言語の言語データの収集と分析

稲垣は、隣接言語ナゴヴィシ・シベ語の四つの主要な方言に関する比較基礎語彙の音声データを収集した。収集は、毎年一度、ランバラム村およびアガバイ村での集中的な現地調査を通して行った。現在その音声・音韻分析を進めている。

なお、寺村と稲垣は、収集された地理情報の整理と分析を行うとともに稲垣と協力してウェブ上の公開の責任を負う予定であったが、下の 4(3)に述べる理由で、この目的を果たすことはできなかった。

## 4. 研究成果

(1) バイツィ語の言語データ・社会言語学的情報の収集と分析

十分な言語データが収集でき、現在英語の簡易記述文法を執筆中である。母音の音韻体系と動詞のパラダイムの分析に問題を残しており、メールなどを通して Maniako の協力を得ながら分析を続けている。

社会言語学的情報は、住民たちの居住形態が内戦およびその後の状況によって大きく変わり、短期の調査による直接の情報収集が困難なことがわかったため、地域の二つの小学校の識字教育担当の教員のインタビューを通して、それぞれの地域のおおまかな話者数や言語併用状況についての間接的な情報を収集した。

これらの調査を通して収集した言語データの分析結果は、図書 および口頭発表に、また社会言語学的分析は、論文、図書、および口頭発表 に生かされた。

## (2) 隣接言語の言語データの収集と分析

稲垣のナゴヴィシ・シベ語の音声・音韻データの収集と分析が進み、バイツィ語、およ

びすでに収集・分析済みのモトゥナ語の基礎語彙との比較が可能になった。稲垣は、現在、ナゴヴィシ・シベ語の音声・音韻分析をめぐる論文を準備中である。なお、この調査・分析に関しては、口頭発表で報告した。

### (3) 今後の課題と展望

バイツィ語地域の方言地図作成に向けての地理情報を集める予定であったが、先に述べたように、内戦等の影響で住民の伝統的な居住形態が大幅に変わっていたため、限られた調査期間で組織的に情報を集めることを諦め、ピケイ村およびその周辺の地理情報を記録するにとどめた。また当初予定していたウェブ上の公開も、ブーゲンヴィル独立前のこの時期に情報公開することによって、政治的な問題が生じる恐れがあるため、今回は断念した。これらは、今後解決すべき課題である。

今回の研究によって、これまで十分な言語データがなかったバイツィ語とナゴヴィシ・シベ語諸方言の、豊富な基礎データを得ることができた。これらの分析を通して、南ブーゲンヴィル語族の比較言語学的研究や類型論研究を一步前進させることが可能になった。今後、ナーシオイ語諸方言とウイサイ語のより詳細なデータを得ることによって、南ブーゲンヴィル語族の総合的な分析が達成できるものと思われる。

### <引用文献>

大西 正幸、「モトゥナ語における Ci/Cu 音節の短縮化」、大西正幸・稲垣和也(編)『地球研言語記述論集 3』、総合地球環境学研究所インダスプロジェクト、2010、pp. 165-194

ROSS, Malcolm. 'Is there an East Papuan Phylum? Evidence from pronouns.' In: *The Boy from Bundaburg: Studies in Melanesian Linguistics in Honour of Tom Dutton*, ed. by A. Pawley, M. Ross, and D. Tryon, Vol. 514 of *Pacific Linguistics*, Canberra: Research School of Pacific and Asian Studies, Australian National University, 2001, pp. 301-321

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

大西 正幸、ブーゲンヴィル島の概要、文部科学省特別経費概算要求プロジェクト「新しい島嶼学の創造」平成26年度成果報告書、2015、pp.21-26, 31-36

大西 正幸、ブーゲンヴィル島(パプアニューギニア)の多様な言語・文化とその未来可能性、文部科学省特別経費概算要求プロジェクト「新しい島嶼学の創造」平成24年度成果報告書、2013、pp.149-154, 270-273

〔学会発表〕(計7件)

大西 正幸、ブーゲンヴィル島の概要、IIOS(琉球大学国際沖縄研究所)レクチャーシリーズ第4回「ブーゲンヴィル島の内戦と独立」、2014年10月03日、琉球大学法文学部(沖縄県中頭郡西原町)

ONISHI, Masayuki. 'Language education at the grassroots', International Symposium: Biocultural Diversity between Research and Policy, 30 September 2014, RIHN (Kita-ku, Kyoto)

INAGAKI, Kazuya. 'Linguistic research in Nagovisi area', 'Biocultural Diversity in the Asia-Pacific' Project Meeting, 29 September 2014, RIHN (Kita-ku, Kyoto)

INAGAKI, Kazuya. 'Fieldwork method: How to elicit sentence data', Signed and Spoken Language Linguistics (SSL) Festa at Minpaku, 27 September 2013, National Museum of Ethnology (Suita-shi, Osaka)

ONISHI, Masayuki. 'Linguistic and cultural diversity in south Bougainville', International Symposium on Biocultural Diversity in the Asia-Pacific, 12 August 2013, RIHN (Kita-ku, Kyoto)

ONISHI, Masayuki. 'Biocultural diversity in Bougainville', MAPS Seminar, 18 July 2013, Melanesian and Pacific Studies Centre, University of Papua New Guinea (Port Moresby, Papua New Guinea)

大西 正幸、ブーゲンヴィル島(パプアニューギニア)の多様な言語・文化とその未来可能性、IIOS 公開シンポジウム「多様性が開く“島”の可能性」、2012年12月22日、沖縄県立博物館・美術館講堂(沖縄県那覇市)

〔図書〕(計3件)

大西 正幸、他、九州大学出版会、「ブーゲンヴィル島(パプアニューギニア)の言語文化多様性-その次世代継承に向けての取り組み」、『島嶼地域の新たな展望-自然・社会・文化の融合体としての島々』、2014、382(39-55)

大西 正幸、他、朝倉書店、「音声の読みとき方」、『地球環境学マニュアル2: はかる・みせる・読みとく』、2014、144(110-111)

ニコラス・エヴァンズ著、大西 正幸他訳、京都大学学術出版会、『危機言語・言語の消滅でわれわれは何を失うのか』、2013、505

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大西 正幸 (ONISHI, Masayuki)  
総合地球環境学研究所・研究部・客員教授  
研究者番号：10299711

### (3) 連携代表者

寺村 裕史 (TERAMURA, Horifumi)  
国際日本文化研究センター・研究部・機関  
研究員  
研究者番号：10455230  
追記：2013年1月より、同センター文化資料  
研究企画室・特任准教授

### (4) 研究協力者

稲垣 和也 (INAGAKI, Kazuya)  
京都大学・大学院文学研究科・教務補佐員  
(学振特別研究員 (PD))  
研究者番号：50559648

KEMELFIELD, Therese  
南オーストラリア州立博物館専門相談員

MANIAKO, Rebecca  
The ELA MURRAY International School  
(Port Moresby, PNG) 教員